

令和6年度 授業改善推進プラン

青梅市立西中学校

教科名

社会

科

1 生徒の実態

1年	2年	3年
○「知識・技能」はおおむね良好であるが、個人差がみられる。 ○「思考・判断・表現」は文章に表わすことはできるが、自分で考えて表現することは苦手な生徒が多い。 ○「主体的に学習に取り組む態度」は普通で、個人差が見られる。	○「知識・技能」については、生徒間で大きく差がある。 ○「思考・判断・表現」については、不十分な傾向がある。 ○「主体的に学習に取り組む態度」は普通で、個人差が見られる。	○「知識・技能」は読み取る力が不足している。 ○「思考・判断・表現」については、文章に表現できても、他者に対して表現する力に課題がある。 ○「主体的に学習に取り組む態度」は良好だが、活発な学習活動という面では不十分である。

2 指導上の課題

1年	2年	3年
○資料活用には時間がかかり、個人差が大きいので、補助指導が有効であると思われる。 ○知識の習得では小テストなどで繰り返し行うことが必要である。同時に生徒が自ら学び自ら考えられる時間が学習の定着に必要なことを指導していく。	○資料活用の学習では、読み取るべき視点を明確化し、資料解釈の苦手な生徒には、教員が個別に支援していく。 ○知識の習得が不十分な生徒は、授業で取り上げる社会的事象の理解が不十分であることや、繰り返し学習をしていないことが原因と思われる。これらの課題を克服する指導をしていく。	○現実的な社会的事象についての関心は高まってきているが、発言者が一部の生徒にかたよっていることが多い。できるだけ多くの生徒が発言できるような授業展開をしていく必要がある。 ○興味をもてる資料を授業で取り扱い、その内容の読み取りにより、社会的事象の深い理解につなげていく必要がある。

3 授業改善の視点とその方策

1年	2年	3年
○生徒が興味関心をもちやすいように、視覚的な教材や社会的事象を身近に感じられるような資料を用いて授業に活かす。 ○小テストを定期的実施する。特に授業の最初の5分間などに前時の復習として行い、知識の定着を図る。	○資料から得た情報をもとに考察させる機会を、授業内で多く取り入れ、多様な視点により社会的な事象を解釈できることを理解させる。 ○授業内で取り上げた概念などや、指導内容を確認する場面を設定し、まとめプリントなどを活用し、知識・理解の定着を図る。必要に応じ、小テストを実施する。	○授業のねらいを明確化したうえで、生徒が関心をもてる視覚的な教材や、社会的事象を身近に感じられるような資料を明示する。 ○資料の解釈を個々の課題とするだけでなく、様々な社会的事象の捉え方を理解させ、他者に対する表現活動を活性化させる。